



<安全に関する情報について>

「安全基本方針」に基づき、「安全・安心」の輸送を確保することを最優先に位置づけておられます。様々な状況を想定した訓練、各種の運転前検査の実施などのハード面、運転士、車掌をはじめとする職員の教育・訓練といったソフト面、種々の安全施策など、様々な取り組みを行い、京阪電気鉄道の安全対策が高いレベルにあることを理解しました。

安全に対する設備の充実はもちろん、ヒューマンエラーの撲滅を重視されています。上田社長および安全統括管理者の西田専務自らが現場に足を運び、現場と経営層とのコミュニケーションによる開かれた風土の醸成に積極的に取り組まれていることは高く評価できます。また、毎月開催される鉄道安全会議の新設など、経営全体のPDCAサイクルの一環として安全のPDCAを位置づけることを目指した取り組みも立派です。今後は、目標の設定も含めて組織的なマネジメントサイクルの実施を一層確実なものへと発展させることも重要と思われる。

<社会性に関する情報について>

関西民鉄のなかで率先して「お客さまセンター」を開設し、顧客の声を聞き、対応するための取り組みを行っていることは評価されます。従業員に対しては、CSRに関するアンケート調査を実施し、課題を明確にされていました。これからは顕在化した課題に対し優先順位をつけてマネジメントに組み込み、改善することが求められます。今後はこの取り組みを積極的に推進して、グループ全体でのCSR意識の向上への取り組みが期待されます。また、地域社会に対する様々な取り組みも理解できました。今後もより一層積極的な働きかけを期待しております。

上田社長から活動の「見える化」の指示がなされており、環境活動を含めたCSR全体の活動目標の定量化を可能な限り進め、達成度も併せて可能な限り開示し、報告書としての透明性と説明責任を満足させることが重要です。

京阪電気鉄道のCSR活動をより高めるには、今まで以上にステークホルダーとの対話が重要になると考えられます。ステークホルダーから意見を聞くことに加えて、京阪電気鉄道のCSR活動への理解を深めてもらうことも大切です。

<環境に関する情報について>

環境保全活動については、京阪電気鉄道全体での環境マネジメントシステムに基づき、各種プロジェクトを編成して、部門横断的に活動されています。京阪電気鉄道の環境負荷としては、鉄道事業の電力消費量削減が最大の課題であると考えられます。鉄道電力削減に向けた取り組みは、鉄道電力削減プロジェクトが主導し、新型車両の導入、省エネ運転の実施などの対策がとられていました。2008年度は中之島線開通に伴う輸送量の増加に対して、使用電力量の増加が予想されます。これに対して、車から環境負荷の少ない電車への乗換えをより積極的にPRする、京都の車渋滞を緩和するパークアンドライドの推進など、社会全体のCO₂削減に向けた取り組みが行なわれており、評価できます。また、車内の冷暖房による電力消費量の削減などには乗客の協力が必要な事項も多く、地域社会も巻き込んだコミュニケーション活動を期待します。環境に優しい鉄道事業における京阪電気鉄道のリーダーシップに期待します。

<CSRレポートについて>

安全、社会性、環境の3つの取り組みの中で「安全」が最初にあり、京阪電気鉄道のCSRにおける「安全」の位置づけを明確に主張する構成内容となっています。今回の報告書は、写真が多く取り入れられ、視覚的にもわかりやすいものになっています。また、記事についても活動の内容が見えるように改善されました。課題としては鉄道事業以外の事業や、グループ全体での情報の充実が望まれます。関西の民営鉄道をリードするCSR報告書であり、今後の進化を期待します。